



自動給水栓

場の51箇所に設置。水位監視や給水栓操作が、インターネット経由でパソコンやタブレット・スマホで可能になっています。「事務所のパソコンで作った夜間かんがいのスケジュールどおりに給水栓の開閉ができる」「東京に出張していてもスマホで水管理ができる」と、大幅に水管理を省力化しています。

このように「イーノなかのはま100」では、農地の大区画化・集積化に加えて、作業・作型の工夫、高度な水管理システムの活用などにより、全体的に作業時間・労務費の大幅な軽減を図っている、先進的な事例を知ることができました。

《 1 日目の視察を振り返って 》

福井県では、この九頭竜川下流地区に限らず、県を挙げて水田営農の転換と農地の高度利用を図り、競争力の高い農業経営体の育成を図っています。集落営農、法人化への取り組みも全国トップレベルで、担い手の確保にも力を入れています。

国内でも高い兼業化率と高齢化率の福井県ですが、その中でいかに地域の農業を守り発展させるか、明確な方向性の中で、土地改良事業、生産基盤の整備が重要な役割を果たしていることを実感しました。亀田郷



農林水産省 北陸農政局



イーノなかのはま100事務所



イーノなかのはま100農業機械格納庫

土地改良区も、地域農業との戮力協心のもと、戦略的な土地改良事業の展開を図っていかなければならないと切に感じました。

③農林水産省 北陸農政局へ訪問

2日目の役員研修では、北陸農政局を訪問し、小林北陸農政局長へご挨拶の後、前田土地改良管理課長より「土地改良区を巡る情勢について」として、これからの事業参加資格の在り方、施設の管理・更新の状況、土地改良区の団体としての在り方などの方向性と課題について説明を受け、併せて土地改良区が極めて公共性が強い団体であることを再認識し、理事・監事の職務について、責任の大きさと不祥事防止対策の必要性など説明をいただきました。

引き続き、富田設計課長より「新たな土地改良長期計画の全体概要」、「事業導入による優良事例の紹介」や、前日に視察した「九頭竜川下流域地区における地域農業の展開について」を説明していただき、地元からの情報発信による事業展開の重要性を認識しました。

時間にして1時間半程度でしたが、参加した役員と随行した職員共々有意義な研修を終えることが出来ました。